



私たちの日常は、
いつもと変わらない。
社会の安全と
人々の暮らしを
守る仕事がある。

安全な未来へ 非破壊検査株式会社

本社／〒550-0014 大阪市西区北堀江1-18-14 Tel.06(6539)5821(代)
東京営業本部／〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-9-8 Tel.03(5651)0311(代)

<https://www.hihakaikensa.co.jp>



本社、安全工学研究所、大阪事業本部
神戸事業本部、東京事業本部

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



—— 創立指揮者 渡邊曉雄 ——

非破壊検査株式会社
クラシック・スペシャル

日本フィルハーモニー交響楽団

第233回 芸劇シリーズ *Geigeki Series*

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
233rd Geigeki Series

これまでサンデーコンサートとしてお楽しみいただいていた
東京芸術劇場の公演を「芸劇シリーズ」へ名称を変更いたしました。

2021年9月5日(日) 14:00 開演

東京芸術劇場コンサートホール

2:00pm September 5th (Sun.), 2021,
at Tokyo Metropolitan Theatre

ラフマニノフ：

ピアノ協奏曲第3番 ニ短調 op.30 (約40分)

Sergei RACHMANINOV: Concerto for Piano and Orchestra No.3 in d-minor, op.30

—— 休憩 (15分) Intermission ——

ホルスト：組曲《惑星》op.32 (約50分)

Gustav HOLST: Suite "The Planets" op.32

指揮：山田和樹 [正指揮者] *Conductor: YAMADA Kazuki, Permanent Conductor*

ピアノ：清水和音 *Piano: SHIMIZU Kazune*

合唱：ハルモニア・アンサンブル *Chorus: harmonia ensemble*

コンサートマスター：扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ] *Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello*

感染防止にご協力をお願いいたします

- スタッフはマスクやフェイスシールドを着用します。また、小声で対応させていただきます。
- 入場時の手指消毒、手洗いをお願いいたします。
- ホール内ではマスクを着用し、周囲のお客様への配慮をお願いいたします。
- 開演前はお席でお過ごしください。また時差退場のご協力をお願いいたします。
- 最低限の水分補給を除き、会場ロビーでの飲食はお控えください。(ホール内は飲食禁止です)
- プラボー等の掛け声はお控えください。ホール内では大声での会話を避けるようご協力をお願いいたします。
- 出演者へのプレゼント (お手紙・お花などを含む)、面会、楽屋入り待ち、出待ち等はご遠慮ください。
- チケットご購入者と演奏会ご来場者のお名前が異なる場合は、ご来場者のご住所、お名前、電話番号を弊団までお知らせください。
- 万が一感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等の公的機関へお客様のお名前と連絡先を提供する可能性があります。
- 新型コロナウイルス接触アプリ (COCOA) 等通知アプリの利用をお勧めいたします。
- 終演後は、できる限り直接ご帰宅いただくようお願いいたします。

主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

協賛：非破壊検査株式会社



©片岡純

指揮：山田和樹 [正指揮者]

第51回(2009年)ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮。以降、世界の主要オーケストラに客演を重ねている。

2010年には小澤征爾の指名代役としてスイス国際音楽アカデミーで、2012年8月にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本でオネゲル作曲《火刑台上のジャンヌ・ダルク》を指揮。同8月にはサントリー芸術財団サマーフェスティバルでクセナキス作曲《オレスティア三部作》も指揮し、好評を博した。2014年7月にはスイス・ロマンド管弦楽団15年ぶりとなる日本公演を、2016年にはバーミンガム市交響楽団日本公演を成功に導いた他、

2017年2月にはベルリン・コーミッシェ・オーパーで《魔笛》、モンテカルロ歌劇場で《サムソンとデリラ》を指揮して高い評価を得るなど、オペラでも活躍。

2016/17シーズンから、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2018/2019シーズンからバーミンガム市交響楽団の首席客演指揮者に就任。

日本では、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、横浜シンフォニエッタの音楽監督としても活動している。

東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。出光音楽賞、渡邊曉雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭大賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。

2019年世界各国206曲の国歌を現地語でレコーディングするという“アンセム・プロジェクト”を東京混声合唱団と完結し、話題となった。メディア出演も多く、音楽を広く深く愉しもうとする姿勢は多くの共感を集めている。日本フィルのミニ番組、BS朝日「Welcome クラシック」(毎週水曜日夜10:54～)出演中。ベルリン在住。公式twitter @yamakazu_takt



© Mana Miki

ピアノ：清水和音

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。

ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。1995年秋から2年にわたって行われた、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲演奏会は、その完成度を新聞紙上で高く評価され、ライブ録音が発行されている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛されている。

2011年には、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番～第4番とパガニーニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。2014年から2018年の5年間では年2回のリサイタル・シリーズ「清水和音 ピアノ主義」を開催。幅広いレパートリーで聴衆を魅了した。デビュー35周年を迎えた2016年5月には、ブラームスのピアノ協奏曲第1番及び第2番を熱演。同年4月からは、年6回の室内楽シリーズ「芸劇ブランチコンサート」を開始するなど精力的な活動を続けている。桐朋学園大学・大学院教授。



合唱：harmonia ensemble (ハルモニア・アンサンブル)

2009年4月に、高水準の合唱演奏の実現による日本の合唱文化の発展を目的として結成されたプロフェッショナルの室内合唱団。ルネサンスから現代音楽までの幅広い合唱音楽をレパートリーとし、日本の作曲家への委嘱活動も積極的に行っている。また、海外公演を積極的に行い、日本の合唱音楽を世界へ発信している。第40回トゥール国際合唱コンクール(仏)グランプリ及び聴衆賞、第10回世界合唱シンポジウムに日

本を代表して招聘。主催公演の他、全国各地の合唱祭への招待、芸術鑑賞教室、音楽教材のCD録音、BS-TBS「日本名曲アルバム」、NHK Eテレ「ららら♪クラシック」へのTV出演など、多岐に亘り活動している。2014-2016年IFCM(国際合唱連合) Official Ambassador(親善大使)。

■ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番 ニ短調 op.30

チャイコフスキーの築き上げたロシア・ロマンティズムは、稀代のヴィルトゥオーゾ・ピアニストにして作曲家のセルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)に受け継がれた。

3番目の協奏曲であるこの作品は、作曲家がドレスデンに滞在中の1907年に着手された。この時期には交響曲第2番をはじめとして、ピアノ・ソナタ第1番、交響詩《死の島》などの代表作が生みだされており、ラフマニノフの創作力は頂点に達していた。この協奏曲はしかし、ドレスデンでは完成されず、1908年のロシア帰国、翌年のアメリカ・カナダ演奏旅行まで持ち越され、1909年によりやく書き上げられたのだった。

これほど慎重に書き進められた第3番は、第2番ハ短調で見出されたラフマニノフのヴィルトゥオーゾ的スタイルを踏襲しており、その華麗さと抒情はあらゆる点で前作の延長上にある。一方で、神経衰弱を克服したカタルシスの跡が生々しく響く第2番と比較され、こちらの方は平静な精神状態の安定した音楽であり、それだけ衝撃的なインパクトに欠けているとも評されている。しかし作品の隅々まで配慮の行き届いた語り口は、演奏家であり作曲家であるラフマニノフが自らの手によって望んだ最高の表現であり、超絶的テクニックと繊細な音楽性のバランスが保たれた傑作と呼ぶにふさわしい。なお初演は完成した年の11月28日に、ラフマニノフ自身の独奏とニューヨーク交響楽団(ウォルター・ダムロッシュ指揮)により行われた。「特にアメリカのために作曲した」という作曲家の言葉を付記しておこう。

第1楽章：アレグロ・マ・ノン・タント、ニ短調、4分の4拍子、自由なソナタ形式。

第2楽章：間奏曲 アダージョ、イ長調、4分の3拍子、変奏曲形式による三部形式。

第3楽章：フィナーレ アラ・ブレーヴェ、ニ短調、2分の2拍子、ソナタ形式。

■ホルスト：組曲《惑星》op.32

グスターヴ・ホルスト(1874-1934)の作品表を見ると、20世紀初頭の1906年頃から5年ほどの間に、サンスクリット文学に影響を受けた作品が多く認められる。彼は王立音楽学校時代にロンドン大学でサンスクリット語を修めており、自ら「ラーマヤナ」「リグ・ヴェーダ賛歌」などを英訳し作曲するほどの傾倒ぶりであった。この東洋への嗜好と同世代の作曲家ヴォーン＝ウィリアムズとのイギリス民謡研究とは、彼の後年の作風に独自のものを培っている。

1913年頃からホルストは占星術に興味を持ち始め、翌年5月から諸惑星の性格に想を得た組曲に着手する。1917年には全曲が完成されているが、この時期がまさに第一次世界大戦と重なっている点を見逃すことはできないだろう。作曲後は何度かの抜粋上演をへて、1920年11月に全曲を通しての初演がなされた。全曲初演当時、ホルストは「惑星の占星術的なキャラクターが着想となっはいるが、標題音楽ではない」と語っている。純音楽としても完成されたものだが、各曲に付けられた標題は、聴き手を否応なく神秘あふれる宇宙へといざなう。

第1曲：「火星 —— 戦争をもたらす者」 低音で執拗に響くりズム、威嚇するファンファーレが戦の足音を告げる。

第2曲：「金星 —— 平和をもたらす者」 前曲とは対照的に穏やかな平和と安らぎに満ちた曲。占星術では金星は「美と愛」の象徴である。

第3曲：「水星 —— 翼のある使者」 軽快な主題がギリシャ神話のマーキュリーの姿を想起させる。

第4曲：「木星 —— 快楽をもたらす者」 祝祭的色彩を持つ歓喜にあふれた楽章。

第5曲：「土星 —— 老いをもたらす者」 ホルストによると「土星は肉体の衰退だけでなく、成就のヴィジョンをもたらす」。作曲者は全曲中この曲を最も愛したという。

第6曲：「天王星 —— 魔術師」 奇怪なモチーフやオーケストラの楽器法を駆使して、魔術の儀式が展開される。ここにもホルストの東洋趣味が読み取れよう。

第7曲：「海王星 —— 神秘主義者」 冥王星未発見の当時、海王星は太陽系の最果ての星。前曲の“儀式参入(イニシエーション)”によって達した無限の世界は、女声合唱の霊妙な響きによって宇宙の涯てへと広がってゆく。全曲を通してみると、〈闘争－歓喜－成就－叡智との合一〉という神秘主義的人間完成の縮図も認められるだろう。

日本フィル・企画制作部

◆お客様へのお願い

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声などで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、写真撮影は固くお断りしております。